

令和3年度 東京都立墨田川高等学校 学校経営計画

東京都立墨田川高等学校長
寺島 雅夫

1 目指す学校像

(1) 教育目標

- ①「知性」 — 明澄な知性
- ②「創造」 — 創造への努力
- ③「自主」 — 自他の敬愛と自律の精神

(2) 学校の使命を果たすために

本校は進学重視型単位制高校及び進学指導推進校として、国公立大学や難関私立大学への進学を実現するために、新たな学びに取り組む学校である。また、東京府立第七中学校以来、創立100年を目前にした歴史ある伝統校として、新たな社会を切り拓くリーダーの育成を期待されている学校である。教科の学習により得るものと特別活動で得るものを一体として、高潔な人格を育て、府立七中・七高・都立墨田川高校と継承されてきた全人教育の伝統を踏まえた教育活動の充実、発展を図っていく。

教育課程を以下の方針で実施していく。

- ① 学習については、単位制高校の利点を生かし、『「予習、授業、復習、自発的学習」の学びサイクル』を生徒自ら実践し、高い学力を身に付け、進路希望の実現を図る。
- ② 部活動については、はじめのある活動を行い、技術・技能等を高めるとともに創造性、社会性、自己管理能力を育て、有為な社会人としての資質を培う。
- ③ 学校行事については、協働意識をとおして、望ましい人間関係を形成し、公共の精神を育成するとともに、学校への帰属意識を高める。
- ④ 規律正しい学校生活により、自ら判断して行動できる資質と能力を育てるとともに、自己理解を深め、自己と他者を大切に思う心を育成する。

2 中期的目標と方策

(1) 3年間を見通した進学指導マネジメントシステムの構築

- ① 将来の生き方を考える進学指導を入学時から体系的・組織的に行い、3年次の4月までに生徒の志望校を明確に決定させる。(早い時期での第一志望校の決定)
- ② 3年間を見通した進学指導計画に基づく外部模試や面接等を積極的に活用し、生徒の進学希望に応じた科目選択指導を行う。(個に応じた効率的な進学指導の徹底)
- ③ 入試結果や定期考査、学力テスト、外部模試等の組織的な分析と定点観測による効果的な進学指導を進める。(自己の学力伸長を意識させる戦略的な進学指導)

(2) 生徒の希望する大学進学を可能にする学力の伸長

- ① 授業を大切にしたい学びサイクル「予習→授業→復習→自発的学習」を定着させ、大学入学共通テストに対応できる学力の獲得を目指す。
- ② 基礎基本から鍛える学習指導と長所を伸ばし短所を補う習熟度別授業・少人数授業の実施

を通して、生徒一人一人の学力を各教科が組織として責任をもって高める。

- ③ 校内研修や教科会、科目担当者の連携を通して、生徒の学力をより高める授業が展開できるよう、組織的な授業力の向上を図る。

(3) 進学校としての学校行事（体育祭・文化祭・合唱祭）との両立

- ① 生徒の創造意欲を高め、新しい社会のリーダーにふさわしい指導力とコミュニケーション能力を培う教育活動を推進する。
- ② 生徒の実行委員会組織を中心とした企画・運営等を通して、集団の中で個性を育み、自主性や社会性、規範意識を高めていく。
- ③ 生徒の自己有用感や帰属意識を高めさせることにより、新しい学びへの相乗効果を図る。

(4) 進学校としての部活動との両立

- ① 東京都教育委員会の定める「部活動の在り方針」に基づき、活動方針と活動計画を明確に定め、公立進学校として勉学との両立を図った部活動を実践する。
- ② 競技会参加、地域や関係機関との交流、発表等を通して、本校のよき伝統や校風を自覚させ、技術・技能の習得だけに留まらない、社会性を育む部活動を実施していく。
- ③ 部活動における安全教育を推進し、事故が無く、体罰の無い健全な指導を展開する。

(5) 自己理解を深め、人権意識を育てる教育活動の実施

- ① 日々の学校生活の中で、他者と協働する機会を増やし、自己理解・他者理解を促進し、多様性を受容できる資質を培う。
- ① 学校の教育活動の全てをとおして人権意識を高め、自分を大切に思う心、他者を大切に思う心を育む。

(6) 意図的・計画的・組織的な学校経営の構築

- ① 分掌・教科・委員会等が組織的に機能する運営体制を整備し、企画調整会議を中心とした学校経営をより一層推進する。
- ② 中・長期的な人事構想に基づき、計画的な人事配置をすすめ、教育活動を推進・改善できる組織的な指導体制を構築する。
- ③ PTAや同窓会、関係機関、スクールカウンセラー、地域、外部専門家等による教育活動評価や学校運営連絡協議会を活用し、学校経営や教育活動等の検証・改善に努める。

(7) 教育環境の整備・充実

- ① 自律経営推進予算を有効に活用し、施設・教育環境の整備に投資していく。
- ② 東京都教育委員会及び学校経営支援センター等と連携し、教育環境整備に努める。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

- ① 進学重視型単位制高校としての教育課程の充実
 - ア 国公立大学受験に対応できる教育課程の実践と改善
 - イ 習熟度・少人数展開、特別講座、進学のための補習等の実践と改善
 - ウ オンライン教育を推進し、対面授業とオンライン授業の効果的な組み合わせを実践する。
- ② 進学指導マネジメントシステムの再構築

- ア 学力テストや外部模試等の定点観測を活用した進学指導システムの実施・改善
- イ 教科主任会議と計画的な教科会の実施による進学のための教科指導の充実
- ③ 学校生活に対する意識の深化
 - ア 計画的・継続的な生活指導による学習習慣の確立
 - イ 学校行事や部活動によるよき伝統の継承と自他を大切に思う心の育成
- ④ 広報・募集活動の充実
 - ア 中学校、学習塾その他関係機関への積極的、効果的な広報・募集活動の展開
 - イ 魅力の伝わる学校説明会等の実施とホームページ等によるきめ細かい学校情報の発信

(2) 主な目標と方策

- ① 教育課程の編成・実施・管理
 - ア 習熟度別授業や少人数授業、多様な選択科目等を点検・改善・精選し、学校の授業だけで
国公立大学や難関私立大学へ合格できる学びを実践する。
 - イ 社会を生き抜くための体力を養うために、教育活動全体で取り組んでいく。
 - ウ オリピック・パラリンピック教育の理念を踏まえ、ボランティアマインドや豊かな国際感覚の涵養に取り組んでいく。
 - エ 障害の有無に関わらず、特別な配慮や支援が必要な生徒に対して、合理的配慮のもとで
可能な支援をしていくとともに、特別支援委員会等による組織的な支援を実施する。
 - オ 外部評価や学校運営連絡協議会からの提言や意見を積極的に取り入れ、教職員の意識改
革を推進する。
 - カ 情報セキュリティに対する教職員の意識向上、教育公務員としてのサービスの厳正について
指導を徹底し、サービス事故の防止に努める。
 - キ 校務の効率化を図るとともに、「My 定時退勤日」や学校閉庁日を設けるなど、教職員のラ
イフ・ワーク・バランスの実現に向けた取り組みを行う。
 - ク 効率的に予算を執行するとともに、センター執行率の高い効果的な予算編成を行う。
 - ケ 施設・設備の点検や修繕を要望し、改修・修繕を実現し、学習環境の整備に努める。
- ② 学習指導（生徒一人一人の学力向上）
 - ア 授業を大切にしたい学びサイクル『予習→授業→復習→自発的学習〔発展・深化学習〕』の
定着を図る。
 - イ 学カスタンダードを活用し、教科指導における学習到達度を明確にするとともに、生徒
の学力や進学希望先を見通した習熟度別授業やクラス編成により、生徒の長所を伸ばし短
所を補い、一人一人の学力の向上を図る。
 - ウ 年2回の大学入学共通テストレベルの実力テストや外部模試等の教科分析をとおして、
授業改善を図り、大学入学共通テストに対する生徒の学習意欲の向上を身に付けさせる。
 - エ 英語教育推進校として、外部試験や外部施設なども積極的に活用し、生徒が「読む、書
く、聞く、話す」の4技能をバランスよく高められるように指導する。
- ③ 進路指導（生徒一人一人の進学希望の実現）
 - ア 学級担任・教科担当者のみならず、5教科の教科主任・副主任との連携を更に強化し、進
路指導部を中心とした進学指導方法・内容の統一性を高める。
 - イ 長期休業中の講習は、志望大学の受験に対応した内容であることを明確にするとともに、
生徒が部活動との両立が図れるように工夫した提示を行い、大学受験に備える。
 - ウ 「3年間を通した進学指導計画」をいずれの年次（学年）も確実に実施していく。
 - エ 自主学習教材の活用を推進し、1年次生から家庭学習の充実を図る。手帳を用いたスケジ

ルール管理により計画的な家庭学習が行えるように指導していく。

④生活指導（規範意識の確立）

ア 都立学校生活指導指針を踏まえ、学校のルールを厳守した節度ある生活を指導するとともに、委員会や部活動等の指導においても挨拶や服装等の指導・徹底を図り、時間を大切にされた品位ある学校生活を確立していく。

イ 安全・防災教育の推進を図る。

＊セーフティ教室や避難訓練等の体験活動を通じた安全や災害に対する意識を醸成する。

＊生徒に通信機器等を適切に使用することを指導するとともに、近隣の小学校等において啓発活動や普及を行う。

＊警察等と連携して、地域における交通安全活動にも積極的に参加する。

ウ 体罰禁止といじめの総合対策に基づいた対応が行えるように、アンケートの実施及び結果の適切な分析を行い、迅速・適切な対応を行う。

エ 「総合的な探究の時間」やホームルーム、「命の講話」などの機会をとおして、命の大切さを学ばせるとともに、スクールカウンセラーや外部機関とも連携し、いつでも悩みを相談できる環境を整える。また、「いじめ調査アンケート」は年間3回実施するとともに、あらゆる手段を講じて、自殺の未然防止を徹底する。

オ 食物アレルギーや食生活の自己管理をとおした健康の保持増進を図る。

⑤ 特別活動（学校生活の満足度の向上）

ア 生徒会や委員会活動について計画的な指導を行い、ホームルーム活動や学校行事を通して学校生活の満足度を高めるとともに、生徒の自主性・自律性・規律性を高める。

イ 部活動では定期考査や学校行事等に配慮し、組織的な指導により、規律ある部活動へと発展させ、生徒の満足感や充実感を高める。

⑥ 研究・研修

ア 教科や分掌における四半期ごとのまとめを内部評価とし、次の四半期への改善計画を立案・実施する。

イ 年間17回の計画的な教科会や科目担当者打合せの協議を通して、授業改善を図るとともに、授業力のみならず進学のための教科指導力を向上させる。

ウ 長期休業日等における計画的な研修や学校外における進学指導方法・内容等の情報収集・活用を通して授業力と進学のための教科指導力、並びに生徒指導力を向上させる。

⑦ 広報・募集活動

ア ホームページ等をきめ細かく積極的に更新し、本校の教育活動の周知を図る。

イ 学校説明会や学校見学会、自校作成問題対策会等を中学校の進路指導とリンクさせ、募集活動を充実させる。